

市民に愛されるコウノトリ



人工巣塔に舞い降りた「ひかる」

カップル誕生で期待高まる

東日本で初の野外繁殖
待望のヒナ誕生と巣立ち

という立場で遊水地周辺の監視・保全活動への協力を依頼するなど、官民一体となっての見守り活動が本格的に始まりました。



▲ヒナの頃の「わたる」と「ゆう」を交代で子育てる「ひかる」と「歌」（小山市産業観光部 渡良瀬遊水地ラムサール推進課撮影）



*コウノトリの観察や撮影は堤防上からなど、150m以上離れた場所から行ってください。
特に、繁殖期間中は堤防上からのみ観察してください。
※危険ですので、路肩や路上など通行の妨げとなる場所へは駐停車しないでください。
※渡良瀬遊水地第2調節池の小山市域では、「渡良瀬遊水地の保全と再生及び賢明な活用に関する条例」によりドローンやラジコン等無人航空機の飛行が禁止されています。

島田泰広さん

オススメ観測スポット

コウノトリ交流館

HERE!

174

松原大橋

思川

ローソン

マクドナルド

野木駅

双眼鏡があると GOOD!

コウノトリ等身大のオブジェもあります!ぜひお気軽にお越しください♪

渡良瀬遊水地コウノトリ交流館 小山市下生井865-1
(営業時間)9:30~17:00 ※10月~3月は9:30~16:00まで
(定休日)月曜日、火曜日、水曜日、年末年始(12/29~1/3)
※定休日が祝日の場合は営業

0280-51-4593

ヒナ誕生の話題は多くのメディアでも報じられ、週末には連日200人が訪れるようになります。さらに800シート用意した記念切手はわずか一週間でほぼ完売。その人気ぶりに島田さん自身も驚いたそうです。「独身だった『ひかる』が『歌』というお嫁さんを連れてきて、夫婦で交代しながら卵を温めたりエサを運んだり。どちらかといふと『ひかる』の方が子育てに熱心だったような気がします。日差しが強いときは翼で陰をつけたりと本当にイクメンでしたね」

両親の愛情を受けたヒナたちは梅雨の短期間で立派な大人の姿へと成長。大きな翼を広げ、人工巣塔の上でびょんびょんと跳ねる姿は、飛び立つことへの恐怖があるのか、跳ねては休んでを繰り返すばかり。餌を運んできた「ひかる」が、見本となるように大きく飛び立ち、それをじっと見つめる「わ

たる」と「ゆう」。そして数日後、7月29日に「ゆう」が、3日後の8月1日に「わたる」が元気よく巣立ちました。その姿は、小山市公式のユーチューブチャンネルで動画としても残されており、生まれ育った人工巣塔から初めて飛び立っていく瞬間は、見る者の胸を熱くさせます。

献花台で示された惜別の想い

コウノトリ交流館で再会を

感動的な巣立ちから2ヶ月後、「歌」が骨折により亡くなるという悲しい知らせが届きました。島田さんは「有志の方が設置した献花台にはたくさんの花が供えられていて。それを見たときに、こんなに愛されていたんだと改めて実感しました」と当時の様子を振り返ります。

同郷の大切な仲間となつた小山の「コウノトリ。昨年5月にオープンした「渡良瀬遊水地コウノトリ交流館」では、これまでの足跡やコウノトリの基本情報はもちろん、美しい一瞬の姿を切り取った写真の数々を見ることができます。また、惜しまれつゝ亡くなつた「歌」のはく製も1月21日より展示。在りし日の姿との再会が叶うのはこれだけです。一方「ひかる」たちはと伺うと、現在も「ひかる」を含めて5羽の「コウノトリ」が遊水地に飛来しているとのこと。また

3月は進学、就職、転勤などでたくさんの方々がそれぞれの場所から巣立ついく季節。コウノトリのように羽をいっぱいに伸ばして、大きく飛躍されることを願っています。

渡良瀬遊水地 コウノトリ交流館

まずは、ここでの情報収集



渡良瀬遊水地はラムサール条約に登録されている日本有数の湿地帯。そこに飛来しているのが国の特別天然記念物コウノトリです。国内の野生個体は一時絶滅していましたが、小山市で定着が確認されました。さらに昨年は、ヒナ誕生というホットなニュースが話題になりました。小山のコウノトリのこれまでと現在の状況を聞いてきました。

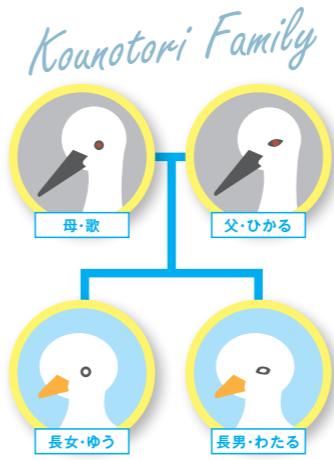
▲2020年8月1日 巢立ち直前のわたる(左)と巣立ち後のゆう(右)(小山市産業観光部 渡良瀬遊水地ラムサール推進課撮影)

一躍注目的的となつた「コウノトリ」のカップル。保護の観点から市はドローン飛行の禁止などを盛り込んだ条例を制定。また、渡良瀬遊水地でコウノトリを観察している写真愛好家の方々には「渡良瀬遊水地見守り隊」仲良くエサをつばむ姿が見られるようになります。

一躍注目的的となつた「コウノトリ」のカップル。保護の観点から市はドローン飛行の禁止などを盛り込んだ条例を制定。また、渡良瀬遊水地でコウノトリを観察している写真愛好家の方々には「渡良瀬遊水地見守り隊」仲良くエサをつばむ姿が見られるようになります。

What's コウノトリ?

日本の野生のコウノトリは、1971年に絶滅しています。狩猟による乱獲、大木の伐採、農薬使用によるエサの減少など、さまざまな要因がありました。その後、増殖や野生復帰の取り組みなどがおこなわれ、約220羽が野外で生活するまでになりました。



昨年5月。東日本では初となる野外繁殖が実現し、渡良瀬に待望のヒナの姿が確認されました。通常、コウノトリは3歳まで繁殖を開始しないとされますが、そのどきの「歌」はまだ2歳。その若さで産んだ卵が孵化したことでも、国内初のことでした。誕生した2羽のヒナの愛称は公募で集められ、一番多かった「わたる」と「ゆう」に決定。誕生の地である渡良瀬遊水地から一文字ずつ取った名前が付けられました。